

令和元年度各会計決算を認定

9月定例市議会が9月1日に招集され、18日までの18日間の会期で開かれました。上程された議案は、教育委員会委員の任命や令和元年度各会計決算認定、令和2年度各会計補正予算など25件と報告4件で、すべて原案のとおり可決・認定されました。

上程された主な議案

◇教育委員会委員の任命

11月30日で任期満了となる吉泉聡氏に代わり、新たに佐藤道彦氏（上新町）を任命することに同意されました。



◇固定資産評価審査委員会委員の選任

11月30日で任期満了となる笹森和雄氏に代わり、新たに小柳千鶴子氏（踏切2区）を選任することに同意されました。



◇人権擁護委員候補者の推薦

11月30日で任期満了となる須藤金悦氏に代わり、新たに平野菊美氏（大砂川）を候補者として推薦することに同意されました。



◇市内の経済状況

4月から6月までの本市景況調査では、調査を依頼した65社のうち81・5%に当たる53社から回答がありました。前年同期と比較して「好転」が7社、「横ばい」が11社、「悪化」が35社となっていて、景況感は前回調査に引き続き後退しています。飲食・宿泊業においては、特に今回の調査対象時期に、県から休業や営業時間短縮を要請された期間（4月25日～5月6日）が含まれたため、休業による4月、5月の減収や、例年であれば客足が増える大型連休中の客足の激減などが影響し、前年と比較し「好転」が1社、「悪化」が4社となっています。建設業においては、DI値（好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値）がマイナス85・7%と、業種別において最も収縮が見られました。感染症拡大による受注停止や、取引先への入場制限により施工できなかつたとの声もあり、感染症の直接的な影響が顕著でしたが、今後の見通しについては、材料調達の遅れが解消され、受注工事が動きつつあるとの明るい声も寄せられています。

主力の製造業においては、前年と比べ「好転」が4社、「悪

◇令和2年度にかほ市一般会計補正予算（第8号）

歳入歳出予算とも6億838万4千円を追加し、予算総額は188億7、527万5千円となりました。

【主な歳出】

- ・議会タブレット導入・運用事業 5、058千円
- ・新型コロナウイルス感染症に係る雇用拡大奨励金 15、000千円
- ・保育対策総合支援事業費補助金 4、508千円
- ・仁賀保一般廃棄物最終処分場屋根修繕工事 2、100千円
- ・観音湯ため池浚渫業務 2、200千円
- ・中山スキー場開設・運営事業 3、945千円
- ・道路除雪業務に係る除雪委託料および車両リース料など 133、669千円
- ・象潟スクールバス車庫建築工事 21、300千円

主な市政報告

◇国の定額給付金

本市では、5月15日に申請書類を一齐に発送し、5月18日から郵送・窓口・オンラインによる申請を受け付けたところ、市民の関心が非常に高く、6月末時点で対象者数の97・9%に当たる9、171人に対して給付金の送金を完了しています。

8月18日をもって申請受け付けを締め切りましたが、辞退者を除いた未申請者は最終的に18人となり、対象者数の99・8%に当たる9、354人に対し、合計24億850万円を送金して給付事業を終了しました。

◇にかほ市事業継続応援給付金

幅広い業種の経営持続化を後押しするため、昨年比べて売上げが20%以上の減収月がある事業者を対象に6月15日から申請を受け付けています。

8月21日現在、493件で9、860万円の給付を決定していて、内訳は法人事業者が139件、個人事業者が354件となっていて、主な業種別では、製造業が経済センサスによる事業所数149社のうち78%に当たる117件の申請があり、申請

請割合、申請数とも最も高くなっています。

また、建設業も事業所数153社のうち69%に当たる106件が申請済みとなっていますが、事業所数で最も多くを占める卸・小売業は、299社のうち申請件数は118件、申請割合は39%に留まっています。

本給付金は今年12月までの売上げ減少者が申請可能ですので、経済低迷の長期化により、今後新たに対象となる事業者も見込まれることから引き続き周知に努めます。

◇にかほ市テイクアウト等消費還元事業

「食べて応援プロジェクト（おうちdeレストラン）」は、5月15日の事業の開始直後から大きな反響があり、好評のうちに多くの市民の皆さまから支援をいただいた結果、予定よりも早く商品券還元総額に達したため、7月26日をもってポイントの付与を終了しました。最終的にスタンプカード16、402枚の返信があり、利用された市民への還元総額は3、280万4千円、参加した飲食店においては合わせて6、560万円以上の売り上げに繋がっています。

主な教育行政報告

◇にかほ市学生生活緊急支援給付金

奨学金を受けている大学生等で、コロナ禍の影響によって生活に経済的な支障が生じている学生に対し、「にかほ市学生生活緊急支援給付金」の制度を設けて学生生活の継続を支援しています。7月31日まで申請を受け付け、申請者190人全員に対して給付金を交付しています。

◇「おくのほそ道」の日本遺産申請結果

文化庁が6月19日に認定した日本遺産に、本市を含む14都府県38市区町が申請した「時間と空間を超えた『おくのほそ道』の旅／不易流行の世界へ」は、3度目の挑戦となった今回も残念ながら選ばれませんでした。日本遺産の認定は今回で終了の予定ですが、今後も各地域と連携し、『おくのほそ道』最北の目的地・にかほ市象潟をPRして参ります。

「化」が17社で、自動車向け電子部品の需要の減少など、取引先からの受注減少を悪化の要因として挙げる声が多くなっています。今後の業況見通しについても、商談会の中止など営業機会の喪失も相まって、「好転」するとはしたのは1社のみで、18社が「悪化」と答えていて、企業によっては今後さらに厳しい状況が心配されます。

◇普通交付税

今年度の普通交付税は、52億3、831万円と算定され、前年度確定額に対し、1・0%、5、523万9千円の減となっています。また、臨時財政対策債においても前年度に比べ2、989万8千円、9・0%減少していますので、実質的な交付額では8、513万7千円の減となっています。交付額の決定に伴い、普通交付税と臨時財政対策債の歳入予算について、それぞれ補正計上しています。

◇聖園学園短期大学との連携協定

これまで、市では3歳未満児の保育料完全無償化や「にかほ市ネウボラあのね」の設置など、子育て世帯への独自の支援を

行っていますが、さらなる充実を図るため、学校法人聖園学園・聖園学園短期大学と連携協定を締結することとなりました。この協定により、学生によるボランティア活動の受け入れや、子育てに関するイベントへの学生派遣のほか、教授等による保護者や保育士等に対する講演会の開催など、さまざまな活動に繋がることが期待されます。

◇農業

稲作の状況は、播種作業が4月12日に最盛期を迎え、その後気温の低い日が続いたものの生育は概ね順調に推移し、5月12日に最盛期を迎えた田植え後も比較的好天に恵まれたため、苗の活着も良好で順調に生育しています。6月は、少雨・多照により目標茎数が十分に確保され、7月以降は天候不良や日照不足で生育が心配されましたが、いもち病の発生もほとんどなく順調な生育状況となっています。一方、野菜については春先は順調に推移しましたが、6月の曇天や7月の長雨の影響により生育が思わしくなく、全国的にも品不足となっていることから